

明海大学不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第404回

昭和末期の1988（昭和63）年に市は都市景観条例を策定し、04（平成16）年の景観法制定を受けて14（平成26）年に新たに景観条例と景観計画を施行した。現在は、市域全体を都市景観誘導地区と都市景観形成地区に指定している。

川越の街で見慣れたロゴを見つけた（写真）。都市部でよく見かけ、誰もが一度は入る米国発のカフェのチェーン店。オリジナルのロゴと力

景観を考慮したカフェ

だ歴史がある。新河岸川の舟運で商業が発展したことが良質な建築の供給につながり、長期利用可能なストックが集積した。

伝統建築と米発コンテンツ融合

関東を中心に訪日観光客も訪れる観光都市だが、歴史的な街並みの大切に早くから気付き、長い時間をかけて維持、保全の努力を重ねてきた。地価が急騰し、開発圧力が高かつ

ラーはすっかりなじみで、どんなビルに入っているか、それと気付く強力な「サイン」となっている。通常はどんな建築の中にあるかは気付かず、カフェの存在を示す看板が目につくところだが、ここでは建築がま

直角方向に太いカウンターが店の奥に長く伸びている。来客を優しく誘い込む造りとなっている。

調べるこの場所は、都市景観形成地区の中心部で、伝統的建造物群保存地区でもある。景観形成や街並み保存の観点では何重もの仕組みが重なる場所である。所構わず自立つ

【教員のコメント】
英米法では建物は土地所有権に含まれ、「盛り上がった土地」である。土を多用する土蔵造りに共通性があり、遺産として建物を使い続ける文化が日本で広がっている。デザインのほか、所有と利用、経営と管理など不動産の仕組みも重要



川崎優太
不動産学部4年

第1の理由は、建築の重厚感であ

こでは所に構っている。米国発の

だ。



強力な「サイン」がある伝統的な建物